

CODE 海外災害援助市民センター
2021年度 事業計画

【1. 海外災害(地)への救援活動事業】

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定 時期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003年	2026年度末
	2	中国・四川省地震救援プロジェクト	2008年	2022年度末
		新型コロナウイルス感染症支援	2020年	2022年度末
●終了予定プロジェク ト	3	東日本大震災救援プロジェクト	2011年	2021年度末
	4	新型コロナウイルス救援プロジェクト(フィリ ピン)	2020年	2021年度末
	5	インドネシア・ロンボク島地震、スラウェシ 島地震津波、スンダ海峡火山津波	2018年	2021年度末

●継続プロジェクト

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の 範囲及び予定 人数	ミールバチャコット地域の2500世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は550世帯(2020年3月時点)。
実施内容	ぶどう畑再生支援事業 ●2021年度の計画 2020年度、新型コロナウイルス感染症の影響や販売の減少もあり、輸入が1回10kgのみにとどまったが、新年度はこのミールバチャコット産の有機レーズンの輸入・販売を通常の60kgに戻すよう努力する。規模は小さいが、この支援プロジェクトを通じて同地区を中心にぶどうの無農薬・有機栽培を浸透させていく。 今年、9.11NY同時多発テロから20年であることから、レーズンの販売を通して積極的にアフガニスタンの現状を発信し、これまでの支援者だけではなく、新規の支援者を増やしていく。

	<p>【今年度のおもな動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、現地のコロナの状況も見つつ、例年とおおり 60kg を目標に輸入、販売する。 ・コープこうべ第3地区の学習メニューで講演の予定(村井理事) <ul style="list-style-type: none"> ・有機レーズンの販売促進・・・100g/650円、20g/150円 * 昨年は、イベント等はことごとく中心になったが、今年度はコロナの状況も見ながら以下のイベントなどで販売する (コープこうべ(ボランティア交流会、平和の集い、ユニセフの集い)、ワンワールドフェスタ for Youth、荒田エコフェスタなど) * 委託販売・・・ケプスでの委託販売も継続 →レーズン販売のキャンペーン(期間限定)をする。 ・今年度は、9.11 から 20 年の節目に際して、以下の通り村井理事にアフガニスタンの文化や暮らしについて話してもらう機会を作り、アフガニスタンの状況を発信する。 <p>○未来基金勉強会「アフガニスタンの農業支援から学ぶ」 * 2-(4)と重複</p> <p>日 時:2021年5月24日(月)</p> <p>開 催:Zoomによるオンライン</p> <p>講 師:村井雅清(CODE 理事)</p> <p>参加者:山村さん、柳瀬さん、黒瀬さん、森本さん、陶冶さん、山内さん、立部、吉椿</p> <p>○第2回〇〇と国際協力「農業と国際協力」 * 2-(3)と重複</p> <p>アフガニスタンからの贈り物 アフガニスタン～ぶどう～日本 KOBE</p> <p style="text-align: right;">9・11 きっかけに始まった農業支援(仮題)</p> <p>日 時:2021年9月頃</p> <p>開 催:Zoomによるオンライン</p> <p>語り手 :村井雅清(CODE 理事)</p> <p>参加対象:一般、未来基金の若者たち</p>
事業の目標と終了予定時期	CODE の輸入するレーズンの総量を 1t に定める。2020 年度末時点での総輸入量 570 kg であるので、残り 430 kg を輸入するにはあと 5 年(年間目標 80 kg を輸入)が必要となる事から終了予定を 2026 年度末とする。ただし、2026 年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。

事業名	1-(2) 中国・四川省地震救援プロジェクト/新型コロナウイルス感染症支援
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民 湖北省武漢市民

実施内容	<p>●2020年度の計画：</p> <p>1. 四川大地震</p> <p>2020年1月に神戸で開催された「世界災害語り継ぎフォーラム」に四川のNGOの張国遠さんを招聘し、四川大地震以降、中国のNGOとCODEが行ってきた連携などを議論することができた。その後、武漢で新型コロナウイルス感染症が爆発的に広がったことから張さんや大阪大学の渥美教授らと共に国際アライアンス「IACCR」を立ち上げ、各地の取り組みや経験を共有した。現在、中国の感染状況は落ち着いているが、航空便が激減しているため航空券が高騰している事、中国国内での厳格な感染防止対策などを考えると渡航は厳しい状況にある。</p> <p>【2021年度の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの状況を見つつ、四川への渡航を再開する。 ・光明村周辺の観光開発(集いの広場や竹林、小川などの整備)の動きを見つつ、村民委員会による農家楽再開の動きをフォローする。 ・新型コロナウイルスの影響で延期になった2020年度の日中NGOボラティア研修交流事業では、これまで29名(うち4名は国内)の学生など若者が四川の被災地で学ぶ機会を提供してきた。このうち、岸本くるみさん(CODE 理事)、堀之内(成安)有希さん(CODE 理事)、柳瀬彩花さん(追手門学院大学3年生)、原田梨央さん(10月から長崎大学大学院へ進学)などは、今もCODEに協力していただいている。 <p>今年度は、コロナ禍など現地の状況を見つつ、2022年春頃に実施し、高校生、大学生などの若者が海外の被災地で直に学ぶ機会を提供する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・張さんたちと今後も継続的にNGOや災害復興、防災、感染症対応の学び合いの場を持つ。張さんたちIACCRは、3月から以下のパンデミックに対する研修を開催している。 <p>2. 新型コロナウイルス感染症支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際アライアンス「IACCR」の取り組みをバックアップ <p>四川大地震以降、連携している四川の張国遠さん(NGO 備災センター、新安世紀教育安全科技研究院)たちが、湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症の拡大への支援を開始し、CODEや渥美教授(大阪大学)に協力要請があったことからCODEも救援を立ち上げた。武漢市が封鎖されていることから、張さんたちはSNSを活用したオンラインボラティアの救援ネットワークを設立し、現地の病院への物資提供や医療スタッフの派遣などを行った。</p> <p>4月からは、張さんたちNGOと大阪大学、CODEが連携して、国際アライアンス(IACCR)を立ち上げ、台湾、中国、フィリピン、インドなど世界各地の民間の取り組みや経験などを共有する学び合いの場を13回持ち、CODEは、現地NGOや国際アライアンスの活動をKOBEブランチとしてバックアップしてきた。</p>
------	--

	<p>2021年度、IACCRは、各国のメンバーと連携して、以下のパンデミックに対する研修を6回実施する。メンバーである渥美教授やCODE、エコ・プラウトさんも研修の講師を担当する。また、コロナの状況を見つつ、武漢を訪問し、現地のボランティアやNGOの知見を調査、発信する。</p> <p>* 研修名「Covid19に立ち向かうコミュニティと社会的組織の国際交流と国際協カプロジェクト」</p> <p>主催: 新安世紀教育安全科技研究院(IACCR事務局)</p> <p>共催: 大阪大学大学院渥美研究室(日本)、CODE(日本)、CEER(中国成都)、愛有戯社区発展センター(中国成都)、四川尚明公益研究センター(中国成都)、RCE Srinagar(インド)、Future Team Mexico(メキシコ)、デュタ・ワチャナキリスト教大学(インドネシア)</p> <p>後援: 成都民政局、成都市チャリティー協会</p> <p>内容: 第1回 3/27 コミュニティは、リスクの調査と感染症の予防と管理をどのように行うか(中国)</p> <p>第2回 4/17 社会的な組織は、不利な人たちに対してどのように効果的にサービスを提供するか(中国)</p> <p>第3回 5/15 パンデミックにおける公衆衛生と心理的サービス(中国)</p> <p>第4回 5/29 世界的パンデミックにおけるSDGsの課題と実践(CODE、中国)</p> <p>第5回 6/26 パンデミック対応の国内外のモデルにおけるコミュニケーション①(インド、インドネシア)</p> <p>第6回 7/10 パンデミック対応の国内外のモデルにおけるコミュニケーション②(メキシコ、大阪大学、中国)</p>
事業の目標と終了予定時期	<p>2018年度で四川大地震後に、CODEが伝統木造建築で建設した老年活動センターを活かした「農家楽」を軌道に乗せること、そして現地のNGOとの防災・減災の学び合いに感染症も加えた学び合いの場を積極的に作っていく。また、国際アライアンス「ACCR」を通じて、感染症だけでなく災害支援のネットワークを充実させていく。</p>

●終了予定プロジェクト

事業名	1-(3) 東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011年3月14日～継続中
実施場所	東日本大震災の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	岩手県大槌、釜石などの被災者
実施内容	<p>東日本大震災から10年の節目を迎えたが、復興のあり方などが改めて問われている。CODEは、被災地NGO協働センターを通じて復興や防災・減災の情報を共有しつつ、海外の被災地との連携、交流の可能性を探ってきたが、今年度で一応の区切りをつける。た</p>

	<p>だし、海外の被災地との交流など必要に応じて、被災地 NGO 協働センターと連携する。</p> <p>10年の節目として、東日本大震災の復興(高台移転、合意形成など)を改めて考え、検証する場を持つ。室崎代表理事に東日本大震災の復興のありようを語っていただく場(寺子屋)を持つ。</p>
事業の目標と終了予定時期	今年度で終了する。ただし、東北の復興状況は未だ厳しい状況にあるので、引き続き連携している被災地 NGO 協働センターと情報共有は継続する。

●終了予定プロジェクト

事業名	1-(4)新型コロナウイルス感染症救援プロジェクト(フィリピン)
実施日時	2020年10月1日～継続中
実施場所	フィリピン・バンタヤン島サンタフェ市バラングイ Poooc、バラングイ Okoy
受益対象者の範囲及び予定人数	バンタヤン島の相互扶助組織のアソシエーションの女性たちと近隣住民
実施内容	<p>●2020年度の計画:</p> <p>・フィリピン・コロナ生活困窮者支援(ガーデンキッチン)</p> <p>2013年にフィリピン中部を襲った台風ハイエンの被災地であるセブ島北部のバンタヤン島を CODE は 2013年～2015年まで支援してきた。2016年～2019年までは北陸学院大学の田中教授が JICA 草の根技術協力事業を活用し、CODE と共にバンタヤン島で女性たちの生活向上のための石鹼プロジェクトや小学生を対象にした防災マップ作りを行ってきた。</p> <p>2020年、新型コロナウイルス感染症によって、リゾート地であるバンタヤン島は、観光客が激減し、島民は大きな影響を受けている。CODE は、台風支援でつながってきたセブの NGO、FIDEC を通じて島のアソシエーションの女性たち自身がコミュニティの中で生活困窮に陥っている人たちに食事の提供をし、そのための野菜などを栽培するプロジェクトを支援した。食材や栽培道具など 40万円を目標に2か月間の寄付キャンペーンを実施し、約 46万円が集まった。また、同時に申請していた庭野平和財団の新型コロナウイルス感染症対応の助成金(59万円)にも採択されたことで、プロジェクトを延長した計画を立てるよう現在、現地 NGO の Jojo さんと協議中である。</p> <p>2021年度は、現地のコロナの状況を見ながら、上述のように現地の NGO やアソシエーションの女性たちの行うコミュニティ・キッチンやガーデニングの動きを持続可能なものにしていく。また、現地のアソシエーションですで行われている現金貸付などの詳細を把握し、マイクロファイナンスの勉強会なども企画する。</p>
事業の目標と終了予定時期	新型の感染症によるパンデミックの終息は、未だ不明であることから、フィリピンだけでなく、各国のカウンターパートの状況を見ながら、その都度理事会で協議していく。

●今年度終予定プロジェクト

事業名	1-(5) インドネシア救援プロジェクト (ロンボク島地震・スラウェシ島地震・スンダ海峽火山津波)
実施日時	2018年7月29日～
実施場所	インドネシア共和国ロンボク島・スラウェシ島・スンダ海峽(ジャワ島西部)
受益対象者の 範囲及び予定 人数	ロンボク島ジェングラン村リアス地区の住民約670名 スラウェシ島シギ県 JonoOge 村や Langaleso 村の子どもたち約100名 スンダ海峽(ジャワ島バンテン州)の被災地の住民とインドネシア建築家協会の専門家達
実施内容	<p>2021年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、現地カウンターパートのエコさんと協議する。</p> <p>スラウェシ島地震支援では、中断していた伝統建築によるコミュニティスペースの建設が再開し、まもなく完成予定であるとラーマットさんから連絡があった。</p> <p>ロンボク島地震支援は、エコさんによると、その後政府が再建プロジェクトで鉄筋コンクリートのプロトタイプの方針を出し、木造などの他のデザインを申請するのは難しい状況になっているとの報告があった。エコさんは、ロンボクの建築家仲間を通じて木造建築の可能性を探ってみるとのことであった。</p> <p>インドネシアは、新型コロナウイルス感染症の感染者が東南アジアで最多で、未だ厳しい状況にある。エコさんによると今後のワクチン接種の状況を見ながらプロジェクトを進めていくしかないとの事であった。</p>
事業の目標と 終了予定時期	インドネシアでも新型コロナウイルスの感染が拡大していることから、現地の状況を見つつプロジェクトを実施していく。

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 事務局体制の充実化
実施日時	2013年11月～継続中
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	数名
実施内容	<p>2021年度は、事務局2名体制でボランティアの方にサポートいただきながら運営していく。学生数名のボランティアや未来基金の若者たちにも事務局業務をサポートしていただく。この数年、家賃を被災地 NGO 協働センターが2/3負担してもらっていたが、半額負担に戻すこととする。また、会計を担っていただいている細川さんの人件費も CODE が半額負担することとする。(1年を期限とし、その都度議論する。)</p> <p>一方で、災害が起きないことを前提として、平時の寄付集めを考える。(チャリティーオークションやクラウドファンディングなどファンドレイジング企画、未来基金の若者を通じた募金箱設置)</p>

	<p>* 主な動き</p> <p>4/8 事務局ミーティング(村井理事、細川、吉椿、立部)</p> <p>4/12 事務局ミーティング(村井理事、細川、吉椿、立部)</p> <p>4/22 人材育成・広報ワーキングミーティング(宮本副代表、岸本理事、堀之内理事、吉椿、立部)</p>
--	---

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	<p>昨年同様、村井、榛木両理事に NGO について、基礎編、実践編の 2 回の講義を行っていただくが、新年度は、これまでに CODE や未来基金にかかわった若者たちにその後を語っていただき、「もう一つの生き方・働き方」を考える場を作り、村井・榛木両理事には NGO の視点で語っていただき、金益見さん(神戸学院大学講師、25 年企画で登壇)にも若者とのかかわりを語っていただく。</p> <p>登壇予定者: 久保陽香さん(神戸大学卒業、2018 年度四川フィールドワーク参加)</p> <p>西本楓さん(神戸大学卒業、2016 年フィリピンフィールドワーク参加 2018 年四川フィールドワーク企画)</p> <p>高橋大希さん(愛媛大学卒業、2017 年ネパールフィールドワーク参加 2018 年インターンシップ経験)</p> <p>立浪雅美さん(兵庫県立大学卒業、 2017 年ネパールフィールドワーク企画)</p> <p>尾澤良平さん(元 CODE スタッフ、 現在、大阪能勢で炭焼きや山仕事に従事) など</p>

事業名	2-(3)「〇〇と国際協力」(* 食と国際協力から名称変更)
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	<p>2014 年 3 月から 2020 年 3 月まで全 59 回開催してきた「食と国際協力」をリニューアルして、2020 年は「〇〇と国際協力」という名前で第 1 回「映画と国際協力」を開催した。コロナ禍での開催であったので、オンラインで実施した。</p>

	<p>2021年度も「〇〇と国際協力」を年1～2回開催する。テーマは「農業、文化、芸術、スポーツ」など。</p> <p>(予定)</p> <p>◎第2回「農業と国際協力」 アフガニスタンからの贈り物 アフガニスタン～ぶどう～日本 KOBE 9・11 きっかけに始まった農業支援(仮題)</p> <p>日 時:2021年9月頃 開 催:Zoomによるオンライン 語り手 :村井雅清(CODE 理事) 参加対象:一般、未来基金の若者たち</p> <p>◎第3回「農業と国際協力」 食と農のサステナビリティ～SDGs通して考えた世界と日本の農と食～(仮題)</p> <p>日 時:2021年10月頃 開 催:Zoomによるオンライン 語り手 :松平尚也さん(AM ネット代表理事、耕し歌ふあーむ) 参加対象:一般、未来基金の若者たち</p>
--	--

事業名	2-(4)CODE 未来基金
実施日時	2015年4月1日より
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	<p>●2021年度計画</p> <p>①.CODE 未来基金プログラム 新型コロナウイルスの影響により当面海外でのフィールドワークの実施が難しいことから、国内フィールドワークやそれに付随するセミナー、および以下に記す新型コロナウイルス感染症への支援活動を中心に、プログラムを公募する。 2019年度以降、外部の選考委員が不在のため、新たな外部選考委員を検討のうえ、プログラムをより意義深く充実したものにするための体制を整える。</p> <p>②.新型コロナウイルス感染症に対する動き コープこうべから申し出のあったコロナ困窮者向けの米の提供を一つのツールとし、学生らによるコロナ禍での支援活動を模索する。企画した支援活動は、CODE 未来基金プログラムとして選考を経て実施する。主に技能実習生や留学生、定時制高</p>

校の学生など、特に支援から取りこぼされてしまう人たちに支援が届くような活動にする。支援活動を通じて見えてくる社会課題や支援先の人々が抱える問題について、参加学生と考える場を設ける。

コロナ禍での海外との交流企画「世界のステイホームから」は、丹波農業プロジェクトや震災26年企画など、他の企画内での勉強会・寺子屋と連動しながら開催することも含めて検討する。

◎生活困窮者支援のヒアリング

日時:2021年6月16日

訪問場所:ベトナム寺院「和楽寺」(長田区)、

子ども食堂「子どもフェスタ兵庫」(兵庫区)

参加者:山村さん、山内さん、塩井さん、村井理事、立部

③.丹波農業プロジェクト

2020年度末に引き続き、「ムラとマチの奥丹波」と連携して現地フィールドワークを実施する。田植えや稲刈りの時期に合わせて3回程度訪問する。また、フィールドワークと並行して、CODEがこれまでに実施した農業支援のプロジェクトや海外の農業、食の問題等について学ぶセミナーを学生主体で企画する。そこでの学びを踏まえて、学生が現地でのフィールドワークに対してより問題意識を持って参加したり、活動内容の一部企画を担ったりできるようにする。また、このフィールドワークをきっかけに大学を超えた学生や若者たちとのつながりが広がっている。SNSを通じて同志社大学3年生の方、宮本副代表を通じて兵庫県立大学大学院生2名も参加したいと連絡をいただいている。

◎第2回丹波農業フィールドワーク

日時:2021年5月29日(土)~30日(日)

場所:兵庫県丹波市市島(市島ファーム)

カウンターパート:ムラとマチの奥丹波(有機農業の農家たち)

内容:ジャガイモ畑の土寄せ、田植えなど

参加者:山村太一(神戸学院大学3年生)、柳瀬彩花(追手門学院大学3年生)、

山内優(関西大学3年生)、黒瀬天孝(大阪大学1年生)、

塩井安奈(大阪大学大学院修士課程)、森本莉永(豊岡地域おこし協力隊)

陶冶(兵庫県立大学大学院博士課程・留学生)の8名

同行者:立部

◎未来基金勉強会「アフガニスタンの農業支援から学ぶ」

日時:2021年5月24日(月)

開催:Zoomによるオンライン

講師:村井雅清(CODE理事)

参加者:山村さん、柳瀬さん、黒瀬さん、森本さん、陶冶さん、山内さん、立部、吉椿

	<p>* 今年度の動き</p> <p>5/14 森本さん(豊岡地域おこし協力隊)のヒアリング対応(吉椿)</p> <p>6/7 丹波 FW 振り返りの会(柳瀬さん、山村さん、黒瀬さん、陶さん、山内さん、塩井さん、森本さん、立部)</p> <p>6/9 兵庫県立大学大学院生のフィールドワークの相談会 (宮本副代表、吉椿、立部)</p> <p>6/16 生活困窮者支援のヒアリング (山村さん、山内さん、塩井さん、村井理事、立部)</p> <p>7/28 兵庫県立大学大学院生ヒアリング(吉椿、立部)</p> <p>9月頃 第3回丹波農業フィールドワークを実施</p> <p>12月頃 第4回丹波農業フィールドワークを実施</p>
--	--

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002年からの継続事業)
実施場所	SOHO形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	<p>「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。</p> <p>現在は、新型コロナウイルスのアライアンスの翻訳などで3名のボランティア方にご協力いただいているが、現状としては HP の更新など追いついていない。今年度も未来基金のインターンやボランティアの若者にも翻訳ボランティアとしてかかわっていただき、HP.FB での情報発信を充実させる。</p>

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学(社会防災特別講義Ⅱ)
実施日時	9月から1月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約40名
実施内容	①「現代社会学部」の後期授業「社会防災特別講義Ⅱ」での講師派遣

	<p>村井理事が長年担っていた社会防災特別講義Ⅱの講義を2020年度から吉椿が引き継ぐこととなった。後期(火曜3限、全15回)の講義を吉椿(7)、斉藤容子さん(3)、頼政(2)、立部(3)を講師としてオムニバス形式で講義を実施する。今年度は原則対面型授業を実施するが、コロナ禍の状況によってはオンラインに移行する。</p> <p>《内容》</p> <p>9/21(火) 第1回 ガイダンス(吉椿)</p> <p>9/28(火) 第2回 CODE 海外災害援助市民センターについて(立部)</p> <p>10/5(火) 第3回 日本の災害復興支援活動(頼政)</p> <p>10/12(火) 第4回 災害とジェンダー(斉藤)</p> <p>10/19(火) 第5回 寄り添いとつながり(吉椿)</p> <p>10/26(火) 第6回 異文化理解と援助(吉椿)</p> <p>11/9(火) 第7回 海外の復興制度(斉藤)</p> <p>11/16(火) 第8回 NGOと働き方(立部)</p> <p>11/23(火) 第9回 国内外の復興支援活動(立部)</p> <p>11/30(火) 第10回 平時の地域防災(頼政)</p> <p>12/7(火) 第11回 災害と貧困(吉椿)</p> <p>12/14(火) 第12回 海外のコミュニティ防災(斉藤)</p> <p>12/21(火) 第13回 援助の生きがたい被災地支援の方策(吉椿)</p> <p>1/14(金) 第14回 グループワーク(吉椿)</p> <p>1/18(火) 第15回 ポスターセッション(吉椿)</p> <p>② インターンシップ受け入れ</p> <p>昨年度は、コロナ禍でインターンシップが中止になったが、今年度は事務局の状況を見て検討する。</p>
--	---

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》親和女子大学(国際ボランティア論)
実施日時	4月から7月まで、毎週月曜日第2限
実施場所	親和女子大学キャンパス、その他課題提出型授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約80名
実施内容	<p>2020年度前期(月曜2限、全15回)より「国際ボランティア論」の講義((担当教員:梶山)が始まった。講師は、坂西卓郎さん(PHD 協会)(5)、斉藤容子さん(関西学院大学)(4)、吉椿(CODE)(5)の三者で担う。今年度も課題提出型、または対面型で授業を行う。</p> <p>《内容》</p> <p>4/12(月) 第1回 ガイダンス(梶山)</p>

4/19(月) 第2回 国際協力概論(坂西)
4/26(月) 第3回 ボランティアの歴史と意義(吉椿)
5/10(月) 第4回 開発教育と参加型学習(坂西)
5/17(月) 第5回 世界と国内の難民(坂西)
5/24(月) 第6回 国際協力と多文化共生(坂西)
5/31(月) 第7回 当事者から学ぶ(坂西)
6/7(月) 第8回 防災と国際協力(斉藤)
6/14(月) 第9回 緊急支援、復興支援(斉藤)
6/21(月) 第10回 ジェンダー視点から見る途上国災害(斉藤)
6/28(月) 第11回 ボランティアから専門家へ(斉藤)
7/5(月) 第12回 NGOとは?(吉椿)
7/12(月) 第13回 国際協力と若者(吉椿)
7/19(月) 第14回 SDGsと災害(吉椿)
7/26(月) 第15回 異文化理解と援助(吉椿)

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学(ボランティア論Ⅱ)
実施日時	4月から7月まで、毎週火曜日第1限
実施場所	神戸学院大学ポーアイキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約10名
実施内容	<p>2020年度から始まった「ボランティア論Ⅱ」(前期火曜1限、全15回)の講義を吉椿が担当する。ゲストスピーカーとして、頼政、立部、斉藤さんにも以下の通り講義を担っていただく。開校時は対面型の授業だったが、緊急事態宣言に伴い現在、オンライン授業に移行している。</p> <p>《内容》</p> <p>4/13(火) 第1回 ガイダンス(吉椿)</p> <p>4/20(火) 第2回 ボランティア総論(吉椿)</p> <p>4/27(火) 第3回 災害ボランティアについて(立部)</p> <p>5/11(火) 第4回 災害ボランティアセンターについて(頼政さん) * オンライン授業</p> <p>5/18(火) 第5回 避難所運営とボランティア(頼政さん) * オンライン授業</p> <p>5/25(火) 第6回 避難所ワーク「HUG」(斉藤さん) * オンライン授業</p> <p>6/1(火) 第7回 復興支援とボランティア(立部) * オンライン授業</p> <p>6/8(火) 第8回 足湯ボランティアとは(吉椿) * オンライン授業</p> <p>6/15(火) 第9回 災害ボランティアのネットワーク(頼政さん) * オンライン授業</p> <p>6/22(火) 第10回 海外のボランティア①(吉椿)</p>

	6/29(火) 第11回 海外のボランティア②(立部) 7/6(火) 第12回 海外のボランティア③(斉藤さん) 7/13(火) 第13回 ボランティアと働き方(立部) 7/20(火) 第14回 災害とジェンダー(斉藤さん) 7/23(金・祝) 第15回 NGOとボランティア(吉椿)
--	--

事業名	4-(5)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 講師派遣 前年度と同様、派遣依頼があれば行う。 * 今年度の予定 12月 ワンワールドフェスタ for Youth で講義(吉椿) 1月 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義(吉椿)

事業名	4-(6) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 関西 NGO 協議会の活動への参加 2017年度より CODE は団体理事として吉椿が理事会(2ヶ月に1度)に出席し、高校生ボランティア育成の事業を担当してきたが、2019年度からは常任理事、2020年度からは NGO-JICA 協議会コーディネーターを担っている。また、関西 SDGs市民アジェンダの分科会座長として SDGs推進事業も担っている。 今年度も引き続き、関西地域 NGO 助成プログラム説明会、NGO スタディツアー合同説明会、関西 CS ネットワークフォーラム、セーフトラベルセミナー、ワンワールド・フェスティバル for Youth.、などを通じてコロナ禍での市民社会の連携と底上げなどでも協力していく。 * 今年度の主な動き 5/8 関西 NGO 協議会常任理事会に出席(吉椿) 4/26 関西 NGO 協議会第1回理事会に出席(吉椿)

5/15 関西 NGO 協議会 2020 年度定期総会に出席、講演(吉椿)
 6/23 関西 NGO 協議会常任理事会に出席(吉椿)
 7/15 関西 NGO 協議会第 2 回理事会に出席(吉椿)
 12 月 ワンワールドフェスタ for Youth でワークショップ、ブース出展
 (吉椿、立部)

・NGO-JICA 協議会(NGO 側コーディネーター)
 2020 年より吉椿が引き継いでいるが、今年度もコーディネーターを担い、年 2 回の
 NGO-JICA 協議会全体会議に出席する。

5/12 NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に出席(吉椿)
 5/17 NGO の集いに出席(吉椿)
 6/1 NGO-JICA 協議会 NGO コーディネーター会議に出席(吉椿)
 6/3 NGO-JICA 協議会 2021 年度第 1 回全体会議に出席(吉椿)
 (参加者:NGO156 名、JICA68 名、外務省・国連 5 名)
 6/14 NGO-JICA 協議会 NGO コーディネーター会議に出席(吉椿)

② コープこうべとの連携

例年通り、総代会への出席、講演会、報告会やイベントなどへの積極的な参加、
 ハート基金運営委員会への出席などを引き続き行う。また、今年度も、組合員の方々と
 CODE や未来基金にかかわる若者が出会う場を積極的に作り、CODE をより知って
 もらい、連携を深めていく。また、資金調達ワーキンググループとしても、コープさん
 に協力関係を深めていく。

2019 年より組織理事としてコープこうべから中川寿子理事が出席していたが、人事
 異動などの理由により、今年度より後任の方に交替することとなった。後任は、徳山
 雅治さん(地域活動推進部 統括部長)との連絡をいただいている。

* 主な予定

- ・6 月 16 日 コープこうべ第 101 期通常総代会は、コロナ禍の影響で総代と役
 職員のみで開催となり、CODE は出席しなかった。
- ・その他、ハート基金運営委員会への参加やコープこうべ第 3 地区福祉サークルリ
 ーダー連絡会などでの講演(村井理事、吉椿)、平和の集いやユニセフの集いで
 のレーズン販売を継続する。

③ 近畿ろうきん

2018 年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」の寄付先団体に CODE は
 選出されており、年間約 25 万円の寄付をいただいている。

2020 年は、コロナ禍の中で「コロナとこれからの市民社会に向けて～SDGs・若者・
 災害の視点から～」(3 回シリーズ)で共催・協賛としてご協力いただいた。また、ろう
 きん主催の講演会のご縁で、パナソニックエナジー労働組合の方々と 2019 年にフィリ
 ピンの台風の被災地バンタヤン島を訪問し、現地の女性たちの作る石鹸の作業スペ

	<p>ースの資金(20万円)を提供いただいた。パナソニックエナジー労働組合からは2020年の新型コロナウイルス感染症支援でもフィリピンの生活困窮者への支援でもご協力いただいた。</p> <p>今年度も、このように近畿ろうきんを通じて、各企業の労働組合の方々にもCODEの活動を知っていただき、災害時の連携も視野に協力関係を構築する。</p> <p>* 主な予定</p> <p>6/15 社会貢献預金「笑顔プラス」贈呈式・寄付先団体のZOOM会議に出席(吉椿)</p> <p>6/24 近畿ろうきん、ラジオカフェ「Kyoto Happy NPO」に出演(吉椿)</p> <p>④ 若者の団体とのネットワーク</p> <p>災害時などにCODEと連携してきた若者の団体(ワカモノデカラプロジェクト、神戸大学PEPUP、アイセック神戸大学委員会、NPO法人まなびと、神戸大学学生救援隊、大学コンソーシアムひょうご神戸、NPO法人しゃらくなど)との関係をより深め、未来基金を通じて若者どうしのネットワークも充実させていく。また、SDGsをキーワードにした若者のネットワーク(ワンフェス for Youth やジャパニューズプラットフォーム)とも協働していく。その他、未来基金に関わるプロジェクトで、上記団体と連携していく。</p> <p>⑤ JPF、JANIC、JICA 関西、人と防災未来センター、ひょうご支え合い募金などのネットワークとも引き続き災害時の情報交換などで連携していく。</p>
--	---

事業名	4-(7) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン / NGO ネットワーク ABAG(セブ市) ・中国 / NGO 備災センター(新安世紀教育安全科技研究院)(四川省成都市) ・国際アライアンス「IACCR」(事務局:中国四川省成都市、14の国と地域) ・ネパール / シェルパ村落開発改善委員会(ソルクンブ郡グデル村シャーレ地区) ・インドネシア/ エコ・プラウオトさん(ドゥタ・ワチャナキリスト教大学) (ジョグジャカルタ特別州) ・バングラデシュ/サイドゥール・ラーマンさん(バングラデシュ防災センター:BDPC) <p>上記のネットワークとの関係をそれぞれの事業や新型コロナ関連を通じて深めていく。</p>

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>① CODE 寺子屋(1~2 回程度)</p> <p>2021 年も昨年同様に多分野の NGO の方を講師に迎え、災害やそれに関連する課題を共に考え、議論する場を提供する。</p> <p>(例)2021 年 CODE 寺子屋</p> <p>「SDGs 時代の人権とは?」(仮題)</p> <p>日時:2021 年 11 月頃</p> <p>開催:Zoom によるオンライン</p> <p>講師:三輪敦子さん(ヒューライツ大阪所長)</p> <p>* その他、スフィア基準などをテーマにした寺子屋も検討する。</p> <p>② 震災 26 年企画</p> <p>2021 年 2 月に開催した震災 26 企画「ポストコロナに向けて、『いま』、1.17 とどう向き合うか」で原点に立ち返る事が確認された。この企画の続編として芹田健太郎 CODE 名誉理事に CODE レターVol.60 の巻頭言「NGO の世代交代と敬虔の蓄積」をもとにした基調講演をしていただき、次の 25 年を見据えた議論を深めていく。</p> <p>日 時:2021 年 7 月 24 日(土)午後</p> <p>開 催:Zoom によるオンライン(ハイブリッド)</p> <p>基調講演:「すべての人に宿るボランティアの心根」(仮)</p> <p>芹田健太郎(CODE 名誉理事)</p> <p>コーディネーター:宮本匠(CODE 副代表理事)</p>

【6. 「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	<p>2020 年度(2021 年 3 月末時点)の会員の状況:</p> <p>正会員 : 27(団体 2、個人 25)</p> <p>賛助会員:101(団体 0、個人 101) 計:128 名・団体</p>

	<p>* 今年度の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛助会員の拡大 今年度は、認定 NPO 法人取得を視野に入れ、事務局業務を精査し、より丁寧な会員・寄付者管理につとめ、会員・寄付者の拡大をはかる。 ・リーフレットのカラー刷新 2019 年度に上野が JICA の研修で作ったリーフレットを元に現在、岸本理事を中心に広報ワーキングでリニューアルを進める。 ・SNS を活用した広報 CODE レター発行など従来の紙ベースものに合わせて、学生ボランティアさんの協力でフェイスブック、Instagram などの SNS を積極的に活用していく。学生ボランティアの原田梨央さんが大学院に進学することから SNS 発信は、柳瀬彩花さんが引き継いでくれる。 ・コープこうべや近畿ろうきんのネットワークの活用 コープこうべや近畿ろうきんの持つ労働組合などのネットワークを活用し、CODE や未来基金の活動をより知っていただく。 ・今年度も「ソーシャルアクションリング」のパナー広告を継続する。 (年 15000 円の広告収入) ・Gochiso というサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みも活用する。
--	---

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣	
実施日時	随時	
実施場所	全国各地	
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数	
実施内容	<p>① 当団体主催の報告会、講演の予定</p> <p>7/24 震災 26 年企画「すべての人に宿るボランティアの心根」(仮題) 基調講演: 芹田健太郎 (CODE 名誉理事) * 5-(1)と重複</p> <p>② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。</p> <p>4/13 神戸学院大学ボランティア論(第 1 回)で講義(吉椿) * 4-(4)と重複 4/20 神戸学院大学ボランティア論(第 2 回)で講義(吉椿) * 4-(4)と重複 4/26 親和女子大学国際ボランティア論(第 3 回)で講義(吉椿) * 4-(3)と重複 4/27 神戸学院大学ボランティア論(第 3 回)で講義(立部) * 4-(4)と重複 5/15 神戸学院大学社会貢献学入門で講義(吉椿) 5/21 神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義(吉椿)</p>	

5/28	追手門学院大学非営利組織論で講義(柳瀬さん、吉椿)	
5/29	国際アライアンス「IACCR」研修で講演(吉椿)	* 1-(2)と重複
6/1	神戸学院大学ボランティア論(第7回)で講義(立部)	* 4-(4)と重複
6/8	神戸学院大学ボランティア論(第8回)で講義(吉椿)	* 4-(4)と重複
6/22	神戸学院大学ボランティア論(第10回)で講義(吉椿)	* 4-(4)と重複
6/24	近畿ろうきん、ラジオカフェ「Kyoto Happy NPO」に出演(吉椿)	
6/29	神戸学院大学ボランティア論(第11回)で講義(立部)	* 4-(4)と重複
7/4	全国ボランティア推進団体会議セッションで講演(吉椿)	
7/5	親和女子大学国際ボランティア論(第12回)で講義(吉椿)	*4-(3)と重複
7/12	親和女子大学国際ボランティア論(第13回)で講義(吉椿)	*4-(3)と重複
7/13	神戸学院大学ボランティア論(第13回)で講義(立部)	* 4-(4)と重複
7/17	兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿) 神戸学院大学社会貢献学入門で講義(吉椿)	
7/19	親和女子大学国際ボランティア論(第14回)で講義(吉椿)	*4-(3)と重複
7/23	神戸学院大学ボランティア論(第15回)で講義(吉椿)	* 4-(4)と重複
7/26	親和女子大学国際ボランティア論(第15回)で講義(吉椿)	*4-(3)と重複
8/21	Tokyo Art Research Lab「災間の社会を生きる術(すべ/アート)を探る -災害復興へのいくつものかわりから(仮題)」に登壇(宮本副代表、吉椿)	
9/21	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第1回)で講義(吉椿)	* 4-(1)と重複
9/28	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第2回)で講義(立部)	* 4-(1)と重複
10/19	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第5回)で講義(吉椿)	* 4-(1)と重複
10/26	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第6回)で講義(吉椿)	* 4-(1)と重複
11/16	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第8回)で講義(立部)	* 4-(1)と重複
11/17	たつの市中央公民館で講演(吉椿)	
11/23	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第9回)で講義(立部)	* 4-(1)と重複
12/7	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第11回)で講義(吉椿)	* 4-(1)と重複
12/21	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第13回)で講義(吉椿)	* 4-(1)と重複
1/14	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第14回)で講義(吉椿)	* 4-(1)と重複
1/18	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(第15回)で講義(吉椿)	* 4-(1)と重複

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年3回発行 メーリングリスト、インターネットは随時発信(積極的にツイッターの利用を行う)
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	・機関紙は年3回、各号1500部を発行し、約1000部を送る。 ・インターネットは不特定多数

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・機関誌: CODE レターは、年 3 回、4 月、7 月、12 月頃に発行予定。 ・メーリングリスト、FACEBOOK: 逐次、災害救援レポートを発信。 ・ツイッター、インスタグラム: 学生ボランティアさんによって逐次発信 今年度も、CODE レター、ML、SNS を活用して広報を充実させる。 HP の英語版の更新も進める。
------	--

【7. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立に向けて
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	<p>①認定 NPO 法人の取得に向けて準備を進める。</p> <p>2020 年度は、今中一寿さんにご協力いただき、現在の会計のあり方(会計の項目の整理)をみなし、認定申請の準備を整えた。2020 年度は、所管庁が一時、認定申請業務を中断していた。現在、会員名簿、寄付者名簿、諸規定などの書類作成の準備をしており、今年度申請予定である。</p> <p>②役員改選</p> <p>2021 年度は役員改選の年であり、団体理事のコープこうべの中川寿子理事が退任し、徳山雅治さんが後任となった。また、吉富志津代副代表が退任されることとなった。</p> <p>③ワーキンググループによる組織基盤の強化</p> <p>2020 年度は、コロナ禍の影響もあり理事会などはすべてオンラインで開催した。その他、26 年企画やその振り返りの会では、理事を中心に CODE や支援のありようを再度検討する機会を持つことができた。新年度も 26 年企画など、ワーキンググループの役割を再確認し、CODE を運営していく。</p> <p>◎CODE ワーキンググループの役割と担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイドライン: 吉富副代表理事、榛木理事、松田理事 2. 人材育成: 宮本副代表理事、堀之内理事 3. 資金調達: 岸本理事、中川理事 4. 広 報: 堀之内理事、西海理事 5. 支援プログラム: 災害発生後、その都度開催 <p>* 室崎代表理事、村井理事は全部門にかかわる。</p> <p style="text-align: right;">(2019 年 7 月臨時理事会議事録より)</p>